

令和6年度

(令和 6 年 4 月 1 日より令和 7 年 3 月 31 日まで)

事業報告

公益財団法人 高松宮妃癌研究基金

東京都港区高輪一丁目14番15号102

目次

第1章 概況	1
第2章 事業の状況	
1. 研究助成金の贈呈	1
2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈	2
3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催	2
3-2. 他の学術団体主催の国際シンポジウムの助成	3
4. 国際講演会の開催	3
5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成	4
6. 機関誌「CANCER」の発刊	4
第3章 管理事項	
1. 会議等に関する事項	
(1) 令和6年度第1回理事会 (通常)	5
(2) 令和6年度第1回評議員会 (定時)	5
(3) 令和6年度第2回理事会 (臨時)	5
(4) 令和6年度第3回理事会 (臨時)	6
(5) 令和6年度第2回評議員会 (臨時)	6
(6) 令和6年度第4回理事会 (臨時)	7
(7) 令和6年度第5回理事会 (臨時)	7
(8) 令和6年度第3回評議員会 (臨時)	7
(9) 令和6年度第6回理事会 (臨時)	8
(10) 令和6年度第1回学術委員会	8
(11) 令和6年度第7回理事会 (臨時)	9
(12) 令和6年度第4回評議員会 (臨時)	9
(13) 令和6年度第8回理事会 (臨時)	10
(14) 令和6年度第9回理事会 (通常)	10
(15) 令和6年度第5回評議員会 (臨時)	10
2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項	11
3. 内閣府からの連絡事項等	11
第4章 受取寄附金に関する事項	12
第5章 附属明細書	
表1 令和6年度研究助成金受領者名簿	13
表2 令和6年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿	16

第1章 概 況

令和6年度は、ポストコロナの初年度となった前年度に実施した6事業に加え、コロナ禍で長く延期を余儀なくされていた国際講演会を5年ぶりに実施することが出来た。重要な公益目的事業として、コロナ禍でも事業を継続してきたがん研究者への研究助成金の贈呈と高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈などの国内事業も予定通り実施出来た。前年度、再開された国際シンポジウムは、当年度ではコロナ禍以前と同様の規模で開催され、晩餐会には常陸宮妃殿下のご出席を賜った。一方、学術賞等贈呈式については、総裁常陸宮殿下のご臨席は叶わなかったものの、学術賞受賞者、研究助成金受領者をはじめ100名以上が出席する中で、滞りなく終了した。式典後には、研究助成事業の成果を寄附者に報告し、感謝の意を表する目的で、学術賞受賞者2名から研究内容を平易な言葉で報告していただき、がん研究という専門的な領域のテーマについて一般の寄附者の方々の理解を深めることが出来た。

当事業年度収支の経常収益については、株式配当及び債券利息等収入が合計175,017千円で、前事業年度比5.4%増（前年度166,067千円）であった。前年度に続き当年度も個人からの遺贈を含む大口の寄附があり、公益目的事業への使用が指定された指定正味財産増減の部の受取寄附金は31,070千円（前年度36,373千円）と期初予算の27,000千円を上回る実績を計上した。当事業年度は、例年の国際シンポジウム開催等の公益事業に加え、国際講演会を実施する一方、収入面では株式配当が前年度と同額の134,707千円、その他の収入は9,267千円の増加にとどまり、公益目的事業収支の赤字を補填するため、過去に計上済の公益事業資金の一部34,371千円を取り崩した。その結果、当事業年度の経常収益合計は、前事業年度比8.4%増の240,914千円（前年度222,299千円）となった。

経常費用については、研究助成金の贈呈及び学術賞の贈呈等を実施した事業に係る費用に加え、国際シンポジウム開催や国際講演会実施の費用等を含め、経常費用合計で前事業年度比4.8%増の238,815千円（前年度227,968千円）となった。

以上の結果、当事業年度の一般正味財産の当期増減額は、2,099千円の黒字（前年度5,669千円の赤字）となった。

第2章 事業の状況

1. 研究助成金の贈呈（定款第4条第1項第1号）（公益目的事業1）

当事業年度の応募件数は224件であり、学術委員会における慎重な選考で40件が採択された。受領者の氏名、研究題目等は、第5章・附属明細書・表1に記載のとおりである。1件当たり200万円を贈呈した。

学術委員会は、令和6年12月5日（木）に開催され、選考結果は、12月18日（水）付の理事会で承認された。

学術賞等贈呈式は、令和7年2月21日（金）、グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）で挙行了した。

2. 高松宮妃癌研究基金学術賞の贈呈（定款第4条第1項第2号）（公益目的事業2）

当事業年度の推薦件数は10件9名であり、学術委員会における基礎研究、臨床研究領域から各1件の原則に従った慎重な選考の結果、各領域から1件の2名が決定された。

1件当たり本賞の楯と副賞500万円を贈呈した。

受賞者の氏名、研究業績等は、第5章・附属明細書・表2に記載のとおりである。

学術委員会における受賞者の選考、理事会の承認及び贈呈式は、上記1.の研究助成金の贈呈と併せて行われた。

3-1. 高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムの開催

（定款第4条第1項第3号、第4号）（公益目的事業3）

第52回高松宮妃癌研究基金・国際シンポジウムを次のとおり開催した。3日間、講演者30名、討論者180名が一堂に会し、秘密保持誓約のもと未公開データを含む成果発表に対する活発な質疑応答が続き、シンポジウムは成功裏に終了した。

(1) 国際シンポジウム

テーマ：新技術と新概念によって進歩するがん研究と医療

会期：令和6年11月12日(火)～14日(木)

会場：パレスホテル東京（東京都千代田区）

組織委員長：佐谷 秀行 博士

藤田医科大学腫瘍医学研究センター
センター長

組織委員：Charles Sawyers 博士

The Marie-Josée and Henry R.
Kravis Chair of the Human
Oncology and Pathogenesis Program
at Memorial Sloan Kettering
Cancer Center

玉野井 冬彦

博士

京都大学高等研究院・物質—細胞統合
システム拠点特定教授

広田 亨

博士

（公財）がん研究会がん研究所
実験病理部部長

石川 文彦

博士

国立研究開発法人理化学研究所
生命医科学研究センター チームリーダー

招待演者：海外18名（米国13名 イギリス フランス ドイツ オランダ
スイス 各1名）

国内12名

討論者：180名

(2) 中原記念講演賞

第18回中原記念講演は、本シンポジウムの特別セッションにおいて行われ、質疑応答も活発な講演であった。講演終了後、講演者には、記念の楯の送付と副賞50万円が贈呈された。

講演者：Frank McCormick 博士
米国・カリフォルニア大学教授
演題：KRAS 変異がんに対する治療アプローチ

3-2. 他の学術団体主催の国際シンポジウムの助成

(定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業3)

下記の日本癌学会が実施した国際シンポジウムに対し助成を行った。

第83回日本癌学会学術総会における JCA-AACR Joint Symposia

テーマ1：“T cell engager (T細胞エンゲージャー)”

[座長] 加藤 光次 (九州大学医学研究院 病態修復内科学)

Taofeek Owonikoko (University of Maryland)

テーマ2：“Inflammation-related carcinogenesis (炎症性発がん)”

[座長] 大島 正伸 (金沢大学がん進展制御研究所)

Raymond DuBois (Hollings Cancer Center)

会期：令和6年9月19日(木)～21日(土)

会場：福岡国際会議場

助成額：500万円

4. 国際講演会の開催 (定款第4条第1項第3号、第4号)(公益目的事業4)

令和2年度から延期となっていた第40回国際講演会を次のとおり開催した。

第1回講演会に先立ち表彰式が執り行われ、山口理事長より講演者に対し、楯が授与された。

講演者：Dr. Joan Massagué

米国・メモリアルスローンケタリングがんセンター

チーフ・サイエンティフィック・オフィサー

演題：転移を誘発する細胞と生態系

受入責任者：国立がん研究センター研究所所長 間野 博行 博士

開催地及び：東京／国立がん研究センター研究所 間野 博行 博士

開催責任者 名古屋／藤田医科大学 佐谷 秀行 博士

京都／京都大学 小川 誠司 博士

日程：令和7年3月4日 第1回講演会 (国立がん研究センター)

令和7年3月6日 第2回講演会 (藤田医科大学)

令和7年3月10日 第3回講演会 (京都大学)

5. AACR 高松宮妃記念講演会開催の助成

(定款第4条第1項第3号、第4号) (公益目的事業5)

米国がん学会 (AACR) の 2024 年の年会において、第 18 回 AACR 高松宮妃記念講演が実施された。講演者の選定は、オンライン会議方式による AACR 選考委員会において行われ、記念講演は次のとおり実施された。なお、同年会には、財団を代表して当財団学術委員の村上善則博士が出席し、記念講演賞の贈呈を行うとともに、高松宮妃殿下並びに財団の紹介を行った。

講演者: Tony Hunter 博士

米国・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授

演題: リン酸化チロシンからリン酸化ヒスチジンに至る長い旅とがんの新たな標的

講演日: 令和6年4月7日 (日)

会場: 米国・カリフォルニア州サンディエゴ
サンディエゴ・コンベンションセンター

Hunter 博士に対し記念の楯及び副賞 1 万ドルを贈呈した。

6. 機関誌「CANCER」の発刊 (定款第4条第1項第5号)

令和6度 (第55号) 機関誌 CANCER を次のとおり発刊した。

発行日: 令和6年8月18日 (日)

発行部数: 700 部

第3章 管理事項

1. 会議等に関する事項

(1) 令和6年度第1回理事会（通常）

開催日：令和6年6月4日（火）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：理事9名（総数9名）・監事2名（総数2名）・顧問1名（総数2名）

議案：① 令和5年度事業報告及び決算について

② 令和6年度第1回評議員会（定時）の開催について

③ 次期役員候補者について

審議結果：提案された3件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長より、定款第33条第4項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(2) 令和6年度第1回評議員会（定時）

開催日：令和6年6月19日（水）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：評議員12名（総数13名）

理事長

監事1名

議案：①任期満了に伴う理事及び監事の選任について

審議結果：提案された1件の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

報告事項：令和5年度事業報告及び決算の承認について

理事長より、令和5年度事業報告及び決算について報告が行われ、
評議員全員から承認を得た。

(3) 令和6年度第2回理事会（臨時）

開催日：令和6年6月21日（金）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：理事 9 名（総数 9 名）・監事 2 名（総数 2 名）

議 案：① 理事長及び常務理事の選定について

② 顧問の選任について

審議結果：① 山口建理事が理事長に選定された。また、今回常務理事の選定はせず、山口理事が常勤理事長として常務理事の職務を兼任する体制とし、可及的速やかに常務理事を選定するよう努めることにつき、全会一致で承認決議された。

② 高山昭三顧問再任が承認可決された。

(4) 令和 6 年度第 3 回理事会（臨時）

開催日：令和 6 年 8 月 1 日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：理事 8 名（総数 9 名）・監事 2 名（総数 2 名）

議 案：① 関谷剛男前理事長に退職手当を支給する件

② 山口建理事長の報酬額を決定する件

③ 理事の新任候補について

④ 令和 6 年度第 2 回評議員会（臨時）の開催について

審議結果：提案された①②④の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。③の理事の新任候補について、現藤森俊幸事務局長を理事候補として評議員会に諮ることにつき、全会一致で承認決議された。

(5) 令和 6 年度第 2 回評議員会（臨時）

開催日：令和 6 年 9 月 3 日（火）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：評議員 7 名（総数 13 名）

理事長

監事 2 名

議 案：① 関谷剛男前理事長に退職手当を支給する件

② 山口建理事長の報酬額を決定する件

③ 理事の選任について

審議結果：提案された①②の議案につき、審議の結果、異議なく承認可決された。

③の理事の選任につき、藤森俊幸理事の選任が全会一致で承認可決された。

(6) 令和6年度第4回理事会（臨時）

開催日：令和6年9月19日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪3-13-1）

出席者：理事8名（総数10名）・監事2名（総数2名）

議案：① 常務理事の選定について

審議結果：藤森俊幸理事が常務理事候補として推薦された。他に自薦、他薦はなく、
審議の結果、全会一致で藤森理事が常務理事に選定された。

(7) 令和6年度第5回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 藤森俊幸常務理事の報酬額を決定する件

② 令和6年度第3回評議員会（臨時）の書面決議提案の件

（令和6年10月4日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、
同提案につき、書面により、理事全員から同意の意思表示を、また監事
全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第46条第2項の規定に
基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和6年10月11日（金）

(8) 令和6年度第3回評議員会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 藤森俊幸常務理事の報酬額を決定する件

（令和6年10月15日（火）提案書発送）

提案結果：理事が、評議員会の目的である上記事項について提案し、同提案につき、
書面により、評議員全員から同意の意思表示を得たので、定款第27条の規
定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：令和6年10月23日（水）

(9) 令和 6 年度第 6 回理事会（臨時）

開 催 日：令和 6 年 11 月 28 日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出 席 者：理事 9 名（総数 10 名）・監事 2 名（総数 2 名）

議 案：① 令和 7 年度の主要事業について

② 役員、評議員及び顧問の報酬並びに費用に関する規程の改定
について

③ 令和 6 年度第 4 回評議員会（臨時）の書面開催について

審議結果：提案された 3 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

報告事項：理事長及び常務理事より、定款第 33 条第 4 項に基づき、職務執行状況につき報告が行われた。

(10) 令和 6 年度第 1 回学術委員会

開 催 日：令和 6 年 12 月 5 日（木）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出 席 者：学術委員 10 名（総数 10 名）

理事長

常務理事

議 案：① 令和 6 年度研究助成金受領候補者の審査、選考について

② 令和 6 年度学術賞候補者の審査、選考について

③ 令和 7 年度（第 42 回）国際講演会の講演者決定について

④ 令和 7 年度（第 19 回）中原記念講演受賞者の決定について

⑤ 令和 8 年度（第 54 回）国際シンポジウムのテーマ、組織委員長の決定
について

審議結果：① 224 名の申請者の内、第 5 章・附属明細書・表 1 に記載の 40 名が
選考された。

② 10 件 9 名の候補者の内、第 5 章・附属明細書・表 2 に記載の 2 名が
選考された。

③ Carl June 博士（米国・ペンシルベニア大学パーカーがん免疫療法研
究所ディレクター）を第一候補、Dana Peer 博士（米国・メモリアル・

スローン・ケタリングがんセンター部門長)を第二候補、Robert Weinberg 博士(米国・マサチューセッツ工科大学ホワイトヘッド生物医学研究所教授)を第三候補とすることを決定した。開催場所及び時期については、講演者との調整によることとした。

- ④ 第 53 回国際シンポジウムの組織委員長から推薦のあった Jedd D. Wolchok 博士(米国・コーネル大学サンドラ・エドワードメイヤーがんセンター所長)が受賞者に選考された。

- ⑤ 学術委員の提案、審議によりテーマを「がんのクローン進化におけるエピジェネティック制御」とし、組織委員長として近藤豊博士(名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍病態統御部門教授)が選考された。

(11) 令和 6 年度第 7 回理事会(臨時)

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 令和 6 年度研究助成金受領者の決定について

② 令和 6 年度学術賞受賞者の決定について

③ 令和 7 年度(第 42 回)国際講演会の実施について

④ 令和 7 年度(第 19 回)中原記念講演賞受賞者の決定について

⑤ 令和 8 年度(第 54 回)高松宮妃癌研究基金国際シンポジウムの
主題および組織委員長の決定について

(令和 6 年 12 月 12 日(木)提案書発送)

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、同提案につき、書面により、理事全員から同意の意思表示を、また監事全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 46 条第 2 項の規定に基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和 6 年 12 月 18 日(水)

(12) 令和 6 年度第 4 回評議員会(臨時)

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 役員、評議員及び顧問の報酬等並びに費用に関する規程の改定
について

(令和 6 年 12 月 13 日(金)提案書発送)

提案結果：理事が、評議員会の目的である上記事項について提案し、同提案につき、
書面により、評議員全員から同意の意思表示を得たので、定款第 27 条の規定に基づき、評議員会決議があったものとみなされた。

評議員会の決議があったものとみなされた日：令和 6 年 12 月 23 日（月）

(13) 令和 6 年度第 8 回理事会（臨時）

開催方法：決議の省略の方法

提案事項：① 令和 6 年度第 5 回評議員会（臨時）の開催について
（令和 7 年 1 月 24 日（金）提案書発送）

提案結果：理事が、理事会の目的である上記事項につき理事及び監事の全員に提案し、
同提案につき、書面により、理事全員から同意の意思表示を、また監事
全員から異議がない旨の意思表示を得たので、定款第 46 条第 2 項の規定に
基づき、理事会決議があったものとみなされた。

理事会の決議があったものとみなされた日：令和 7 年 1 月 30 日（木）

(14) 令和 6 年度第 9 回理事会（通常）

開催日：令和 7 年 3 月 12 日（水）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：理事 9 名（総数 10 名）・監事 2 名（総数 2 名）

議案：① 令和 7 年度事業計画について
② 令和 7 年度収支予算について
③ 令和 7 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果：提案された 3 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

(15) 令和 6 年度第 5 回評議員会（臨時）

開催日：令和 7 年 3 月 12 日（水）

開催場所：ザ・プリンスさくらタワー東京（東京都港区高輪 3-13-1）

出席者：評議員 8 名（総数 12 名）

理事長

常務理事

監事 2 名

議 案：① 令和 7 年度事業計画について

② 令和 7 年度収支予算について

③ 令和 7 年度資金調達及び設備投資の見込みについて

審議結果： 提案された 3 件の議案につき、審議の結果、いずれも異議なく承認可決された。

2. 内閣府公益認定等委員会への報告、申請等に関する事項

(1) 令和 5 年度事業報告等の提出	令和 6 年 6 月 19 日（水）
(2) 変更の届出(理事長の変更)	令和 6 年 8 月 2 日（金）
(3) 変更の届出(理事の 1 名増員)	令和 6 年 10 月 22 日（火）
(4) 変更の届出(評議員の 1 名減員)	令和 7 年 1 月 14 日（火）
(5) 令和 7 年度事業計画書等の提出	令和 7 年 3 月 30 日（日）

3. 内閣府からの連絡事項等

内閣府から公益法人宛には、不定期にメールにより情報連絡が行われる他、原則隔週水曜日に「内閣府 公益法人メールマガジン」が発行され、公益認定等委員会からの伝達事項、公益法人への依頼事項、公益法人の現況と運営へのアドバイス、テーマ別セミナーや相談会のお知らせ等が記載されている。この情報連絡に関し、令和 6 年度に対応した事項はない。

また、当事業年度において、次のとおり内閣府公益認定等委員会の立入検査が実施された。

検査実施日時：令和 7 年 1 月 23 日（木）午後 2 時から午後 4 時まで

検査実施場所：当財団事務所

立入検査職員：2 名

第4章 受取寄附金に関する事項

当財団の公益目的事業は、経常収益を構成する基本財産運用益、特定資産運用益、受取寄附金、雑収益で運営されている。受取寄附金は、高松宮妃殿下が関係された様々な法人から毎年お届けいただく寄附金、妃殿下と世代を超えて何らかのご縁の続く多くの皆様からの継続的なご寄附、妃殿下の「がん撲滅」の悲願に賛同された日本中の皆様からのご寄附などであり、経常収益の重要な位置を占める。

当事業年度に受け入れた寄附金は以下のとおりである。

・法人	44 件	22,942,186 円
・個人	55 件	8,128,000 円
・法人個人合計	99 件	31,070,186 円

第1章の概況に記載のとおり、当年度は、前事業年度に続き、当初予算の27,000千円を15%上回る寄附金を受け入れることが出来た。

第5章 附属明細書

表1 令和6年度研究助成金受領者名簿

以下の受領者に対し、1件当たり200万円の研究助成金を贈呈した。

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
大 澤 毅	東京大学 先端科学技術研究センター ニュートリオミクス・腫瘍学 分野 准教授	ニュートリオミクスを駆使したがん代謝連関の 解明と次世代代謝阻害剤の開発
大 塚 基 之	岡山大学 学術研究院医歯薬学域 消化器肝臓内科学 教授	PARP阻害剤適応症例の同定のための相同組み換え修復不全を持つ癌細胞の簡便な検出法の開発
岡 泰 由	名古屋大学 環境医学研究所 講師	内因性アルデヒドによる発がんメカニズムの解明
荻 原 秀 明	国立がん研究センター研究所 がん治療学研究分野 分野長	ARID1A欠損型びまん性胃がんにおける“パラログ同時阻害法”に基づいた合成致死標的の探索
小 幡 裕 希	国立がん研究センター研究所 がん細胞内トラフィック研究 ユニット 独立ユニット長	正常とは異なり小胞体—ゴルジ領域で生じるMET／ALK／RETシグナル ～胃・肺がん、神経芽腫、甲状腺腫の初期分泌オルガネラへの停留メカニズムの解明～
刀 坂 泰 史	静岡県立大学 薬学部分子病態学分野 講師	がん関連線維芽細胞におけるアルギニンメチル化酵素の機能解析
北 村 俊 雄	東京大学 薬学系研究科分子腫瘍薬学 東京大学名誉教授	骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、大顆粒リンパ性白血病、発作性夜間血色素尿症の関係性の解明：クローン性造血の関与
佐 伯 龍 之 介	京都大学 大学院医学研究科 腫瘍生物学講座 助教	クローン性造血による発がんリスクを標的とした革新的予防医療の開発
齋 藤 義 修	大阪大学 大学院医学系研究科 消化器内科学 助教	TEAD経路を標的とした肝細胞癌治療の新規治療法の開発
佐々木 泰 史	札幌医科大学 医療人育成センター 教養教育研究部門生物学 教授	p53ネットワーク破綻による翻訳動態の変化と発がん過程における意義
三 田 貴 臣	名古屋市立大学 大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学分野 准教授	T細胞急性リンパ性白血病における転写因子異常とエピジェネティック制御
塩 谷 文 章	東京医科大学 医学総合研究所 ゲノムストレス応答学部門 教授	DNA複製動態解析によるがんの薬剤耐性獲得機構の解明

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
白 石 航 也	国立がん研究センター研究所 臨床ゲノム解析部門 部門長	肺腺がんの発症リスクに関わるテロメアの多様性の解明と発症要因の同定
鈴 木 隆 史	東北大学 大学院医学系研究科 准教授	NRF2活性化扁平上皮癌の悪性化機構解明と新規治療法開発
鈴 木 美 穂	名古屋大学 大学院医学系研究科 腫瘍生物学講座 助教	細菌感染が卵巣がんに関与する影響の解明と新規治療法の開発
関 由 行	関西学院大学 生命環境学部生命医科学科 教授	始原生殖細胞の大量調整法を用いた胚細胞腫瘍発生機構の解明
竹 内 千 尋	東京大学 医学部附属病院消化器内科 助教	腸上皮化生特異的クロマチン異常に着目した新規胃癌治療法の開発
田 中 洋 介	東京大学医科学研究所 システム疾患モデル研究 センター細胞制御研究分野 准教授	DNAバーコードを用いた白血病になりやすい造血幹細胞亜集団の同定
田 沼 延 公	宮城県立がんセンター研究所 がん薬物療法研究部 部長	代謝制御を介して腫瘍細胞が自身への免疫寛容を導く新規メカニズム
茶 本 健 司	京都大学 大学院医学研究科 がん免疫 PDT 研究講座 特定教授	T細胞内ミトコンドリア代謝におけるオートファジーの役割解明と腫瘍免疫への応用
富 田 亜 希 子	京都府立医科大学 大学院医学系研究科 分子生化学 プロジェクト研究員	BRCA1・BRCA2機能不全におけるゲノム発生機構の解明
長 澤 丘 司	大阪大学 大学院生命機能研究科 医学系研究科・医学部 教授	造血微小環境（ニッチ）を標的とした造血器腫瘍制御に向けた基礎研究
中 田 雄 一 郎	千葉大学 大学院医学研究院 疾患システム医学 特任助教	遺伝子発現抑制型オンコヒストンによる造血器腫瘍発症の解明とその応用
中 村 修 平	奈良県立医科大学 医学部医学科生化学講座 教授	オートファジーの加齢変容による発がん機構の解明
鍋 倉 幸	愛知県がんセンター研究所 腫瘍免疫応答研究分野 分野長	次世代ナチュラルキラー細胞療法の開発に向けた基盤技術の構築
野 村 昌 志	東京大学 医学部附属病院脳神経外科 助教	浸潤部膠芽腫細胞の遺伝子発現プログラムの解明

代表研究者氏名	所 属 ・ 職	研 究 題 目
平塚 佐千枝	信州大学 医学部医学科分子医化学教室 教授	ヒト転移前ソイルを生体で検出するシステム開発の試み
福村 和宏	藤田医科大学 研究推進本部 腫瘍医学研究センター 講師	がん細胞が生成する異常プロテオームの特性と抗がん剤耐性獲得機構の解明
平島 一輝	岐阜大学 連合創薬医療情報研究科 ・高等研究院 G-YLC 特任助教	新規ミトコンドリア呼吸鎖阻害分子を用いた転移阻害戦略の開発
細川 裕之	東海大学 医学部基礎医学系生体防御学 准教授	RUNX転写因子によるT細胞の運命決定とその破綻によるT-ALL発症メカニズムの解明
町谷 充洋	国立がん研究センター研究所 がん幹細胞研究分野 ユニット長	新規R-loop制御因子の探索
丸山 玲緒	がん研究会 がん研究所がんエピゲノム プロジェクト プロジェクトリーダー	腫瘍内不均一性の形成における染色体外DNAの役割と治療標的化の検討
三橋 惇志	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野 特任講師	腫瘍内fibrocyteを標的としたがん間質の制御と新規免疫療法への展開
三原田 賢一	熊本大学 国際先端医学研究機構 特別招聘教授	小児期特有の血中胆汁酸上昇によるがん化学療法後の骨髄回復機構の解明とその応用
村井 純子	愛媛大学 大学院医学系研究科 生化学・分子遺伝学 准教授	がん化学療法のunmet medical needs克服に向けたDNA損傷応答研究
森田 覚	慶應義塾大学 医学部外科学教室 (一般・消化器) 助教	大腸癌肝転移における線維化誘導性免疫変容と転移再発メカニズムに関する研究
安永 純一郎	熊本大学 大学院生命科学研究部 血液・膠原病・感染症内科学講座 教授	HTLV-1 bZIP factor-TGF- β /Smad-WNT経路クロストークによる成人T細胞白血病発がん機序の解明
山内 拓司	九州大学病院 病態修復内科 助教	BCL2阻害剤（ベネトクラクス）を用いた、新規AML治療法の開発
吉見 昭秀	国立がん研究センター研究所 がんRNA研究分野 分野長	PDXモデルを用いた肉腫核酸医薬療法の最適化
渡邊 潤	新潟大学脳研究所 脳神経外科 非常勤講師	小児脳幹部腫瘍に対するエピジェネティクスを標的とした放射線増感療法の開発

(五十音順 敬称略)

表2 令和6年度高松宮妃癌研究基金学術賞受賞者名簿

以下の受賞者に対し、1件当たり500万円の賞金を贈呈した。

受賞者氏名	所属・職	研究業績
河野 隆志	国立がん研究センター がんゲノム情報管理 センター センター長	治療標的・診断手法の発見・開発・実装 によるがんゲノム医療の推進
吉野 孝之	国立がん研究センター 東病院 副院長 医薬品開発推進部門長 消化管内科医長	大腸がん薬物療法の世界的標準治療の 確立とがん個別化医療の研究開発

(五十音順 敬称略)